

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372200927		
法人名	有限会社 かたやま		
事業所名	グループホーム ひなた 1ユニット		
所在地	赤磐市 殿谷 32-1		
自己評価作成日	平成28年05月30日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護理念『いつもわたしたちがそばにいます』
すべての介護の場面にあてはめ 今必要な関わりを考え寄り添う。温かく、そして粘り強くチームワークで支援する。
『笑顔と会話を大切にする』見慣れた職員の笑顔と声が入居者の気持ちを穏やかにします。そして私たちは、一瞬一瞬から生まれた思いもかけない言葉や仕草に元気をもらい、日々小さな感動を積み重ねています。
毎日、良いことばかりでなくても記録にし、画像に残し、その方の生きた生活すべてが宝物となるよう大切に思っています。そして、認知症について 地域の人、地域以外の人にも正しい理解が得られるような支援します。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3372200927-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成28年6月14日

平成26年度にこの「ひなた」が十周年を迎えるにあたって何をすべきか考えた時、職員の頭に浮かんだのは晴れやかなセシモニーではなく、90人程の方々との出会いと別れの数々だった。そして果敢に取り組んだのが2階の部屋の壁一杯に広がる「十年の歩みを年表にしてみました」プロジェクト。一日一日を大切に過ごした中で忘れ得ないエピソード・とびきりの笑顔の写真等、いとおしくてたまらない人との絆が綴られた年表だ。この宝物は「ひなた」の理念を象徴するプロジェクトになったのではないと思われる。そして、もうすでに次のステップを踏み出しているホームは今、新しい問題に立ち向かっている。その一つはホーム開設当初は考えられなかった「ひなたで看取る」事で、すでに12人もの方と人生の最期を共にしている。日頃から一人ひとりに常に寄り添いかかわりを大切にしている、「グリーンケア・カンファレンス」としてこの時も「思い出エピソード」を語り合い、アルバムも作って個人を偲び家族に喜んでもらっている。また、若年性認知症のケアも取り組んでいて、グループホームとしての新たな役割を担おうとしている頼もしいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念を念頭に置いた対応になる様、それぞれが気をつけている。地域との結びつきも大切にしながら、暮らしを支えるようにしている。	10周年記念には記憶に残る思い出として年表を作成し、表にしたことで振り返りが出来、「頑張ろう」という新たな意欲につながった。「いつも、わたしたちがそばにいます」という理念は着実に職員の中に浸透し、利用者一人ひとりに寄り添う支援が出来ている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、夏祭り、溝掃除などに参加し、ひなたの行事にも参加して頂けるよう声を掛け、普段から交流をしている。	ボランティアで立ち寄ってくれる地域の人は、「自らが高齢になったから分かる事」を職員に教えてくれる利用者の代弁者のような存在であり、野菜の差し入れ等もしてくれる。市の文化祭に利用者の作品を展示、幼稚園の運動会を見学に行き「玉入れ」等の競技にも参加する等、地域との交流も幅広く行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	赤磐市のボランティア養成講座、ケアカフェへの参加等、地域の方々の支援に役立つよう取り組んでいる。岡山大学の学生へ講義を行うなど、若い世代の育成支援も出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際、前回の振り返りを行うと共に評価への取組みなど話し合っている。常にサービス向上に活かす様、前向きに捉え頑張っている。	地域の人や多職種の人にも案内を出し、地域包括、家族、消防署員、地域住民、利用者等が参加して定期的に開催している。写真を掲載したホームの活動報告を始め、事故報告・ヒヤリハット事例等もオープンにして意見交換をし、参加者からのアドバイスで声かけの方法を変えてみる等、即、申し送りをして実践している。	2のユニットの様に重度化した利用者が多いケース等では、不安な点や気にかかる問題点を具体的に提示し、地域の方々や参加家族に意見を求めておきたい。内容によっては家族全員とも共に考えるチャンスを作り、方向性を共有する工夫をして欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないことがあればすぐに相談している。介護保険以外のわからない事も相談し理解を深めている。また、市からの相談も出来る限り協力し、連携を大切に取り組んでいる。	運営推進会議に地域包括職員の出席があり、地域の「さんさんカフェ」のお誘い・案内や転倒予防に関するアドバイス等、情報提供をしている状況が議事録からよく分かる。日頃から連携を密にして何かあると相談し助言等をしてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について定期的に学び、やむを得ず拘束を行う場合も、ご本人の希望に添う対応を心がけている。	臥床時の夜間転落防止の為に家族の同意を得て止むを得ず2点柵を使用する場合は、3ヶ月毎の見直しをして職員間で安全対策を話し合っている。高齢者虐待防止法の研修をして職員間で周知徹底を図り、身体拘束・言葉による抑止をしないケアを心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について研修参加し、勉強会でも周知し、防止に努めている。又、各ユニットにいつでも閲覧できるように書類を置き、注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で制度について学んでいる。現在、成年後見人制度を活用している入居者はいない。申込者に情報を伝えられる様必要なことは調べ、学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定時、家族に十分な説明を行っている。改定の際は文章も合わせ説明し同意をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会議で頂いた意見は、反映させるよう話し合い、会議録にも掲載している。会議録は各ユニット、地域に回覧し、家族へ直接渡したり、郵送したりしている。	毎月家族へ状況報告、行事予定、個々の写真を掲載したお便りを送付している。運営推進会議で出た家族からの転倒防止に関する具体的意見を検討中であり、職員間で話し合っ運営に反映している。面会シートに気になった事・心配な事の記入欄があり家族からの声も届きやすい。	運営推進会議等でも家族の参加があり、家族の立場からの意見の記録も見られるし、利用者本人の参加の例も確認できたが、折角のチャンスが充分活かされていなくてもいい。利用者や家族からの思いを具体的に問いかける等、今以上に引き出せる工夫を期待している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申送り、ミーティング等、意見を言い易い雰囲気で行うようにしている。職員会議で話し合い、意見交換も行い反映させるようにしている。	定期的なミーティングや日々の申し送りノートで情報の共有をしながら随時職員間で話し合っている。利用者の食事形態によって食事時間をずらす等職員からの意見は日々のケアに活かしている。20代の職員も増え、ケアのやり方等でお互いに良い刺激を受けていると聞いた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価表を取り入れ、各自が振り返り、目標をたて向上していけるようになっており、それに対する諸手当もある。希望や体調に考慮したシフト体制に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員に合った研修があれば参加を促し、参加した職員には勉強会で発表出来る様支援し、スキルアップしている。今年はキャリア形成訪問研修を依頼している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム同士で交流できるよう呼びかけ交流の機会を設けている。運営推進会議の参加を呼び掛け、お互いの事情や悩みを分かち合い、サービスの質を向上することが出来るよう話し合っている。さらに深めたい、		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、事前面接を行い家族ご本人から不安なこと、望んでいることを柱に情報を得、安心できるケアが出来る様努めている。又、情報だけを頼らず、しっかりとコミュニケーションをとって信頼関係をつくるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、申し込みの段階から家族が困っていること、心配なこと等聞き、入居時の様子等、必要な所から収集した情報を活かしながら、良い関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学、申し込み時に状態を良く聞き、どのような生活すれば、望まれる支援が出来るか、希望の生活が送れるか話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの出来る事を行い、それに対する感謝の言葉を伝え、支えあい暮らしている。利用者同士、談話をしながら行なう野菜のショウヤク、洗濯たみ等微笑ましい様子がみられる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月写真入りのお便りで様子や近況報告等を行っている。ご家族も受診や外出や面会、個人に応じた支援の協力をして下さっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力で自宅へ帰ったり、知人の訪問があったりする。ドライブや受診帰りに馴染みの道を通り、懐かしさを感じてもらえるよう支援している。	中学校の同級生数名が定期的に訪問してくれる人や元の職場の後輩が面会に来てくれる人もいる等、気軽に訪問しやすい雰囲気作りをしている。中には夫の面会が日課になっている人もいる。馴染みの店でお茶を飲んで帰ったり自宅付近をドライブする等、それぞれの関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置を考え、利用者同士と一緒に雑誌を見て談話したり、協力してパズルを楽しんだり出来る様にしている。職員が間に座り、話し易いようなきっかけ作りも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご本人に面会させてもらったり、その後の様子を伺ったりしている。必要に応じて相談や支援が出来る様な関係づくりを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話等から思いや意向の把握に努め希望に添える様にし、状態が変わったり、必要な時には大切なことは何か、安心する事は何かを家族と直接相談し、対応している。	外出時に見かけた「ガジュマルの木」を欲しいという利用者の希望を叶える為に、一緒に買いに行った「鉢植え」を居室に飾って自分で世話をしている人もいる。「出かけたい」という思いを尊重してゴミを捨てて行ってもらうこともあれば、近くの公園に外出して満足した表情を浮かべる人もいる。職員は個々の思いを汲み取って出来る限りの支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの生活歴等や情報提供書で把握に努めている。入居寸前の生活リズムをなるべく続けられるよう支援し馴染みの暮らし方に近づけるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態を把握し、小さな変化に気付き、体調や心身状態等考慮し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段の生活の様子等から課題をあげ、ケアサービス介護計画書につなげている。家族、関係者の意見も反映できるよう話し合いもしている。	カードインデックスを活用し日々の会話や記録を基に利用者・家族の意向に添ったケアプランになるように職員間で話し合い、プランを作成している。介護理念に基づいた「ひなた」独自の様式であり、プロセスも分かりやすく、「そしてどうなりましたか」の評価につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録やカード等を活かし、毎月の職員代表者会議でも報告相談している。気づきや工夫を実践し、プラン見直し時には反映させるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の様子に気をつけ、その時のニーズに応じた支援が出来るようカード等を利用し、毎日の申し送りを把握し柔軟な支援ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	多職種の方に参加して頂いている運営推進会議時等に様々な情報を得ることができる。地域の行事に参加し、それを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの関わりを大切にし、本人、家族の希望に添うように受診支援を行っている。かかりつけ医と事業所の関係も築き、連携して支援出来るようにしている。	家族が受診同行する時に日頃の利用者の様子が分かる記録を見せてもらえると医師に情報を伝えやすいという要望を受けて、個人記録をレポート用紙にまとめて渡している。ホームの提携医の月2回の往診、訪問看護、訪問歯科、必要に応じて訪問眼科や訪問皮膚科もお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期訪問看護時、主にカーデックスと排泄表を用い報告相談している。特変時には24時間電話相談が出来るような体制にあり、適切に受診も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時速やかに情報提供書を作成し提出し情報交換や相談に努めている。退院時にはその後の生活が安定できるよう、事前訪問し情報を得たり、相談したりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時から家族に重度化、終末期、看取りに関しての説明を行い、その時の気持ちを伺うようにしている。利用者の状態の変化に添い、随時確認をし、医療と連携し、支援している。	この数年で10数名の看取りの経験があり、新人職員にとっても良い体験になっている。看取りを終えた1ヶ月程後、「グリーフケア・カンファレンス」を行い、家族と職員とでアルバムを見ながら故人を偲び振り返りをしている。今年度は訪問看護師を講師に迎え「第1回ひなたの看取り研修」を実施して職員の勉強会をした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急蘇生法の訓練が定期的に行われている。急変時の救急要請の手順も全員把握出来ており、連絡体制も整っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、職員が順番に体験し、毎回、意見や感想を基に次の訓練につなげ、向上できるよう努力している。地域の方の参加もある。又、年に1回赤磐市で行われている消防技術訓練大会に参加し、消火器を実際に使用し消火の訓練も行っている。	夜間想定で消防署員の立ち会いの下、避難訓練を実施した。今回は避難チェックボードに利用者の顔写真を入れて、参加した地域の人に避難場所で確認してもらい、消防署からの評価も良かった。居室の入り口に「車椅子マーク」を貼って緊急時の避難誘導の目印にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	状況を把握し、時に応じた親しみのある声かけを心掛けている。プライドも大切にし、気持ちやタイミングにも考慮した、優しい声かけに努めている。	新規入所の利用者も数名あり、慣れるまで寄り添ったり本人の居場所を職員と一緒に見つけてあげるように努めている。精神面でマンツーマンでの寄り添いが必要な人には「いつもそばにいます」という理念を念頭に置いて接し、職員も個別に合ったケアをする事で成長している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、本人の希望に添える様な声かけになる様に気をつけている。職員間で情報共有し、本人が希望を伝え易いように導いたり、自己決定出来るよう働きかけたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを優先して、その合間に業務を行うようにしている。手早く業務を行い、寄り添う時間が増えるようにした対応に気をつけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の好みを大切に、散髪の希望を伺い理容師に伝えている。身だしなみにも気をつけ声を掛けてブラッシングしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には野菜のショウヤクをして頂いている。食器洗い、お盆拭きなども無理のないよう職員と一緒にしてもらっている。食事の楽しんでもらえるようテレビを切り、BGMを流している。	菜園で採れた旬の野菜を使用し、重度の人が多いユニットには調理専従の職員を配置し、一人ひとりの食事形態に細かい配慮をし、利用者に話しかけながら楽しい雰囲気ですべてを食事をしている。別のユニットでは自分で食事をする人が多く、後片付けや家事手伝いは日常的であり、行事にはちらし寿司等を一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事形態、量を提供している。好みの物やゼリーなどを取り入れ必要な水分が摂れる様に工夫している。毎食前、口腔体操を楽しく継続し、咀嚼力を高めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを施行している。ADLに合わせ歯ブラシ以外に口腔スポンジや口腔ウエットティッシュを使用している。必要に応じ歯科受診や往診をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のリズムを把握し、声かけをしている。自分で訴えが難しい人も様子や表情等をみてトイレ誘導し、自力排泄を促すようにしている。	ポータブルトイレの肘あてや蓋の部分に緩衝材等の個別の工夫をしたり、高齢者に比べ発汗作用の激しい若年の人の為に、吸水力・ギャザー等、紙パンツやパットのサンプルをいろいろ試している。トイレと風呂場が直結しているので排泄の失敗にも素早く対応できる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バナナやヨーグルトなどを取り入れ、出来るだけ自然排便が出来るようにしている。排泄表で排便有無の確認をし、出やすい時間などには誘導し腹部マッサージ等も行い促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日置きに入浴出来るよう声を掛けている。それぞれの好みの温度を把握しており、気持ちよく入浴出来るよう配慮している。	基本的には週3回の入浴だが、その日その時の体調や気分によって臨機応変に対応している。中には上手に断る人もいるが、無理強いはせず特定の職員に絞ったり、時間をずらす等の工夫をし、重度化したシャワー浴の人も時には2～3人介助で湯船に浸ってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の体力を知り、臥床を好む方には自由に休んでもらえるように配慮している。居室での室温、湿度等の環境にも気をつけ、快適に過ごして貰えるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果、副作用について勉強会で学んでおり、薬内容に変更があった時は特に症状の変化に注意し対応している。また、必要に応じて薬剤師へ電話相談も行い確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力に合わせ、出来ることは手伝ってもらっている。楽しみの支援が、少しでも多く出来るよう、一人一人の好みを把握し、喜びに満ちた素敵な笑顔を見られるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、体調に合わせ、外出支援を行っている。外食や地域行事の参加の他、足湯や買い物など声をかけ一緒に出掛けている。家族の協力を得た外出もある。	「楽しみ支援」として外出支援にも力を入れており、利用者の笑顔をより多く、楽しい体験を沢山してもらえるように職員のアイデアを活かしながら日々の支援をしている。お楽しみ会では回転寿司やスーパーでの買い物等に行ったり、ちょっとした気分転換に足湯や散歩にもよく出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしていない。欲しい物も希望があれば家族へ伝えた承を得て、一緒に買い物に行ったりしている。希望があればいつでも相談し必要に応じ支援したい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時は電話をかけている。個人の状態に応じ、電話を代わったり、代わりに伝えたりして支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節に合わせた壁飾り作りを一緒にを行い、それを飾っている。いつも身近な草花を生けており、季節を感じてもらい、そこから楽しい会話が生まれている。又、毎年5月には天井に大きな鯉のぼりを飾って昔を懐かしめる雰囲気作りに努めている。	リビングは高い天井や天窓からの採光が明るく開放的な空間になっており、テーブルや椅子の配置にも配慮しながら利用者が過ごしやすい環境作りをしている。玄関やリビングには利用者の手作り作品や行事の写真が展示され、日頃の楽しい生活の様子がよく伝わってくる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人と話しがしやすいような席の配置を行い、希望に応じて居室とホールの行き来をしてもらえるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、使い慣れたなじみの物や必要な物を持参してもらっている。心地良い配置になる様相談しながら環境整備の工夫をしている。	個々の状態により物を置かないシンプルな室内もあれば、写真やお気に入りのポスター、ぬり絵作品を飾っている居室もある。重度化が進み居室で過ごす事が多い人には快適に過ごせる工夫がしであり、室内装飾にも家族の愛情が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることはして頂き、わかることが出来るだけ継続できるよう支援している。安全に過ごせるよう配慮している。		